

# 令和4年度 野田市農産物直売所指定管理者管理運営状況調書

担当課 農政課

評価基準	評価項目	指定管理者自己評価	担当課評価	特記事項
利用者の平等利用が確保されること	①平等利用確保への取組	B	B	
施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること	①サービス向上のための取組状況	B	B	
個人情報の適切な保護が図られていること	①個人情報保護のための取組	B	B	
緊急時の危機管理体制が確立されていること	①緊急時の危機管理への取組	B	B	
	②要望、苦情への取組	B	B	
現金の取扱い等の経理処理が適切に行われていること	①現金の取扱い	B	B	
管理経費の縮減が図られるものであること	①指定管理に係る収支見込について	C	B	
	②経費縮減のための取組	B	B	
地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際して、地元業者へ配慮すること	①地元住民の雇用及び地元業者への配慮	B	B	
事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	①人員配置について	B	B	
	②職員の指揮監督・管理体制について	B	B	
	③人材育成の取組状況	B	B	
<p>総合所見</p> <p>農業の振興と障がい者の自立支援を目的とした地産地消の拠点として開所して15年目、農事組合法人ゆめあぐり野田として10年目の運営状況として、販売については12月末現在で来客数79,376人（昨年同期80,493人）販売額112,508,132円（昨年同期113,120,257円）、一日平均415,159円（昨年同期412,848円）となりました。</p> <p>今年度の収入の面では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策からイベントを中止若しくは縮小開催したことや、店員の新型コロナウイルス感染による三日間の臨時休業が影響したことで販売額が減少し、年度末の販売実績見込額は141,000,000円前後となる状況である。また、支出の面では、光熱費の高騰やパート職員の賃金の上昇等により増加となったことで、最終的な収支は現時点で赤字となる見込みである。しかしながら、これまで蓄積した約7,000,000円の内部留保があることから今後の運営には支障がないと判断されるため、指定管理者自己評価ではCであったが担当課評価はBとした。今後は更なる経費節減に努めるとともに、売上げの向上を図りながら引き続き完全利用料金制の下で、事業目的の達成に加え、法人の収支の状況に注視しながら進める必要がある。</p> <p>また、障がい者自立支援では、障がい者に就労の場を提供するため、「野田市の障がい者雇用作業員」を受け入れており、障がい者の就労に配慮している点は評価できる。</p> <p>12月30日に担当課の農政課による施設点検を行った結果、危険箇所はなかった。</p>				